

学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式（小学校用）

| | |
|----|-----|
| 県名 | 三重県 |
|----|-----|

学校の概要（平成15年4月現在）

| | | | | | | | | | |
|-----|-------------|----|----|----|----|----|------|-----|-----|
| 学校名 | 四日市市立中部西小学校 | | | | | | | | |
| 学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 13 | 23 |
| 児童数 | 55 | 60 | 55 | 59 | 61 | 59 | 4 | 353 | |

研究の概要

1. 研究主題

| |
|----------------------|
| 「確かな学力を身につけ、主体的に学ぶ子」 |
|----------------------|

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

| |
|--|
| ・全学年・算数科 学習の成果と課題を明確にすることができ、児童の姿がとらえやすい教科であるため |
|--|

(2) 年次ごとの計画

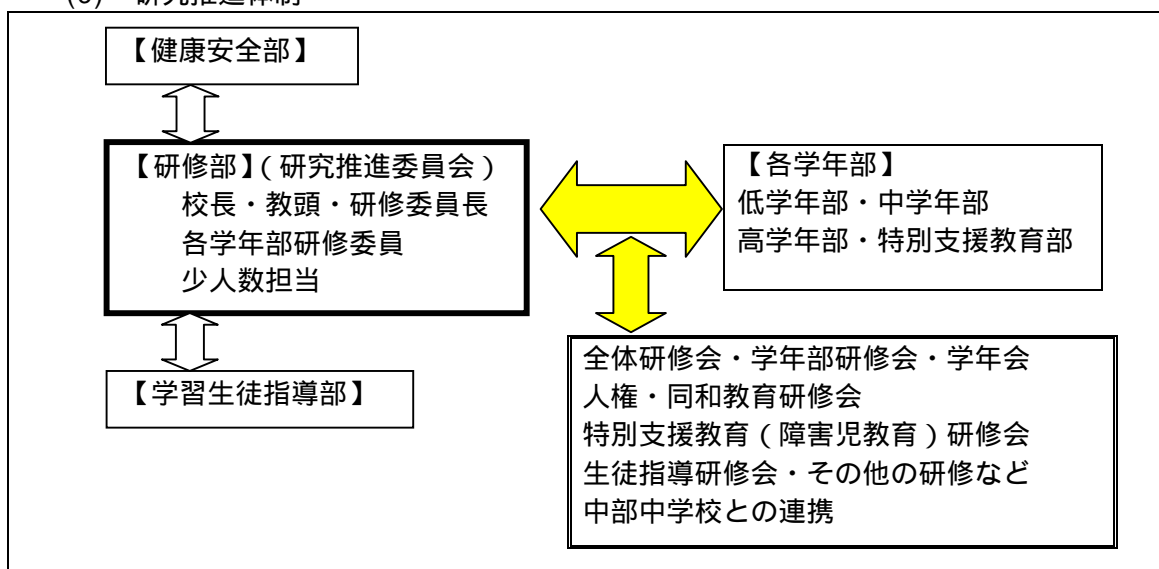
| | |
|--------|--|
| 平成14年度 | <p>テーマ 算数科における指導と評価の一体化を手がかりに 研究の見通し（仮説） 「知識や技能を身につけ、活用する力」を確実に身につけさせることを重点におき、算数科に焦点をあてて指導と評価の一体化を手がかりに研修を進める。</p> <p>研究の内容・方法 算数科における「確かな学力」のとらえ方や主体的な子どもの姿について、本校の子ども具体的な姿と照らし合わせながら追求・検証していく。 評価規準・評価基準を作成し、それに基づいて指導と評価を行い、その結果をもとに子どもの学力の定着度を見ていくとともに指導の見直しを行う。 指導方法や評価の仕方等を工夫する。（ノート指導・教具の開発、発掘等） 効果的な指導体制の工夫を行う。（少人数指導・TT指導等） 算数の授業に関する情報交換会を適宜開催する。 研究授業や講演会などを通して、研修を深める。 先進校視察を行い、研鑽に努める。 中学校との連携を深めるために、授業公開を通して交流を図る。</p> |
|--------|--|

| | |
|--------|---|
| 平成15年度 | <p>テーマ 指導と評価の一体化を図りながら 研究の見通し 1年目の研修の成果は継続・発展させるとともに、課題となった点について研修を深める。算数科で身につけた力と他教科・他領域で身につけた力とを相互にリンクさせられるような取り組みを進める。</p> <p>研究の内容・方法 「確かな学力」の定着度について、具体的な子どもの姿を通して追求・検証していく。</p> |
|--------|---|

| | |
|--------------------|--|
| 平成 15 年 度 | <p>読む力・聞く力・話す力等の言語に関する力を定着させるための工夫を行う。 指導方法や評価の仕方等を工夫し、指導と評価の一体化を図る。 (評価規準・基準の設定、ノート指導・教具の開発、発掘等) 効果的な指導体制の工夫を行う。(少人数指導・TT指導) 効果的な学習環境(机の配置やワークスペースの活用等)のあり方を工夫する。 研究授業や講演会などを通して、研修を深める。 先進校視察を行い研鑽に努めるとともに他のフロンティア校との交流も図っていく。</p> <p>西の子タイム(朝の会后15分間)の充実を図り教科指導との連携を図る。 中学校との連携を深めるために、授業公開を通して交流を図る。</p> |
|--------------------|--|

| | |
|--------------------|---|
| 平成 16 年 度 | <p>テーマ(案) 算数科における指導と評価の一体化をめざして 研究の見通し(案) 2年間の研修の成果は継続・発展させるとともに、課題となった点について研修を深める。算数科で身につけた力と他教科・他領域で身につけた力とを相互にリンクさせられるような実践力の育成をめざしたい 研究の内容・方法(案) 「確かな学力」の定着度について、具体的な子どもの姿や<u>学力調査等</u>を通して追求・検証していく。(「指導と評価の一体化」の検証) *「<u>学力調査等</u>」(追加) より客観的な評価を行うため 読む力・聞く力・話す力等の言語に関する力を定着させるための工夫を行う。 指導方法や評価の仕方等を工夫する。(ノート指導、教具開発・発掘、評価法等) 効果的な指導体制の工夫を行う。(少人数指導・TT指導等) 効果的な学習環境(机の配置やワークスペースの活用等)のあり方を工夫する。 研究授業や講演会などを通して、研修を深める。 先進校視察を行い研鑽に努めるとともに他のフロンティア校との交流も図っていく。</p> <p>西の子タイム(朝の会后15分間)の充実を図り教科指導との連携を深める。 授業公開やホームページ公開等を通して、中部中学校と学びの一体化を図ったり他の学校との連携を深めたりする。(他校への情報発信) *「<u>ホームページ公開</u>」(追加) 研究の経過等を幅広く知ってもらうため</p> |
|--------------------|---|

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

「確かな学力」を「学習課題を自分なりの工夫をして解決しようとする力」ととらえ、さらにそれを「既習事項や経験を活用する力」と「友達の考えと比べて自分の考えを深め、まわりへ広める力」という二つの力に具体化したことで、めざす子どもの姿を日常の授業場面で具体的に追求することができた。

14年度の成果をふまえ、指導方法については14年度の取り組みに成果の積み上げをすることができた。その結果、「学び合い」のできる子ども(学習集団)を育てるための指導のポイントが明らかになってきた。具体的には以下のとおりである。

| | |
|---------------|---------------------|
| 指導計画の立案・見直し | 指導内容・ねらいに応じた指導体制の工夫 |
| 算数的活動の効果的な活用 | 課題設定・問題提示の工夫 |
| ノート指導・学習感想の充実 | 小テスト・プリント学習の実施 |
| 教室掲示の工夫 | 言語能力の向上 |
| 学習空間の活用 | |

特に、「指導体制の工夫」については、均質グループでの少人数指導を基本としながら学期末等には課題別グループでの学習を取り入れた(3~6年)、一つの単元内で少人数指導とTT指導を組み合わせる指導したり(3年)、学年TTに取り組んだり(2年)と、個に応じた指導が行えるような試みを進めることができた。

一人ひとりの子どもの姿を的確に把握するための評価について研究を進めることができた。その結果、教師の子どもをみる視野を広げることができた。具体的な評価の手立ては以下のとおりである。

評価規準・評価基準の設定、評価場面・評価基準の具体化を図る。
単元ごとの評価を行う。子どもの姿の把握+テスト・プリント学習の活用
子どもの姿の把握・教師の評価(座席表等への記録・子どものノート等)より
・子どもの自己評価(ふり返りカード、自己チェックカード等)より
テスト・プリント学習の活用・市販テストの学習のめあて別得点集計
・自作テストの作成

上記の指導及び評価の工夫の取り組みを進めると同時に、「指導と評価の一体化」を図る取り組みを進めることができた。具体例は以下のとおりである。

【具体例】・・・3年

2学期末に2学期の学習内容の理解度を自己評価させ、その結果をもとに課題別グループで復習を行う時間を3時間設定した。

(ばっちり3点・まあまあ2点、自信なし1点として得点化し学年平均点を算出)

<長さ 2.36 わり算 2.55 四角形 2.53 たし算・ひき算 2.65 かけ算 2.66 大きな数 2.07>

大きな数の点数が低く自信なしと答えた子どもたちが多かったので大きな数だけで1グループ、長さ・四角形で1グループ、残りの計算単元で1グループを作って指導した。

【具体例】・・・5年

2学期末にまとめのテストの1回目を実施し、学習のめあて別に自己評価()させた後、課題別グループで復習し、その後再度テストを実施して自己評価させた。その結果、いずれの問題も2回目の方がよく理解できたと答えた子どもが多く、特に小数のかけ算・わり算の文章問題では、「 」が11%から5%に、「 」が48%から28%にそれぞれ減り、「 」が40%から66%に増えた。

提案授業に関する全体研修会では一人ひとりが授業の中で印象に残った場面をカードに書き、それをもとに討議の柱立てを行うという方法をとったことで、全職員が課題を持って主体的に討議に参加することができた。

全員が研究授業を行うことで、授業を通して「指導と評価の一体化」を図る手立てについて研究を深めることができた。

先進校視察や著名な講師の講演を聴講することで研鑽を深めることができた。

2. 今後の課題

現在のスタイルを継続しながら指導内容や子どもの実態に応じてフレキシブルに指導形態の工夫を行う。（「指導と評価の一体化」という視点での少人数指導のとらえを大切にしていく。）

習熟度別少人数指導や課題別少人数指導などの効果的な活用方法の検討

少人数指導やＴＴ指導の効果的な活用方法の検討

「少人数指導での学び」を「学級集団での学び」へ、「学級集団での学び」を「少人数指導での学び」へと生かしていく。そのために、算数科と他教科等との指導の連携をさらに進める必要がある。

「確かな学力」を身につけた子どもの姿を授業の中でより具体的に明らかにしていく。そのための手立てとしては、以下の点を総合的にとらえていきたい。

関心・意欲・・・日常の観察、学習感想、アンケート等

考え方・・・日常の観察、発表、ノート・ワークシートの記述、テスト等

表現処理・・・日常の観察、発表、プリント・小テスト、テスト、ノート等

知識理解・・・日常の観察、発表、プリント・小テスト、テスト、ノート等

～ については、より客観的なデータを得るため、到達度検査を実施する。

評価の手立てについては、さらに検討が必要である。特に、評価場面や評価基準をより具体化・簡素化することが必要と考えている。また、子ども自身による自己評価力も高めていきたい。

「Ｃ評価」した子どもへの対応（その後の指導の手立て）について共通理解を図る必要がある。

学力把握のための学校としての取組

座席表や名列表等の活用

座席表や名列表等に学習中の子どもの姿（発言内容、理解度、つまずき、考え方、まわりの子どもとのかかわり等）について記録していき、それをもとに子どもの姿の変容等を把握する。（授業中や授業後）

ノートやワークシート

授業後に子どもに学習感想を書かせ、その内容から子どもの姿を把握するように努める。また、ノート等にかかれた文や式、図表等から子どもの考え方を把握する。

子どもの自己評価

子どもに学習のふり返しカードを書かせたり、学期末に学習の定着度の自己チェックをさせたりする。

市販テストの活用

単元終了後及び学期末・学年末には市販テストを実施する。その際、３観点だけではなく、指導内容（学習のめあて）ごとに細かく得点集計を行い、つまずきをチェックする。また、学期末テストでは１度テストを実施した後、復習する時間を設けて再度テストを実施し、理解度の伸びを子どもに実感させる。

小テスト・自作テスト・プリント学習の実施

指導のねらいごとにスモールステップで小テストやプリント学習を実施し、子どもの理解度をチェックする。ときには自作テストを実施し、市販テストでは把握しきれない子どもの力についてより細かく把握するように努める。

16年度は、知識理解・技能・考え方の３観点での学力定着をより客観的にみるために、到達度検査を２～６年生で実施の予定。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 研究会、説明会等の開催実績及び開催予定(日時、場所、対象、会の目的、参加人数等)
 本校の研究過程や事後検討会等をみていただき、意見をうかがうことで研究推進にいかしたいと考え、本校の全体研修会を公開するという形で以下のように3回の公開研究会を開催した。
 第1回 H15.6.25(水) 於;中部西小 北勢教育事務所管内小・中学校【49名参加】
 第2回 H15.10.15(水) 於;中部西小 北勢教育事務所管内小・中学校【48名参加】
 第3回 H15.11.26(水) 於;中部西小 北勢教育事務所管内小・中学校【48名参加】
 平成16年度は11月26日(金)に公開研究会を予定。
- * 研究成果普及のためのHP作成、パンフレット作成等の実績(学校としての創意工夫を含む)及び今後の予定
 - ・ HP作成については現在検討中。
 - ・ 今年度は14年度の研究概要(基本構想及び少人数指導等)についてまとめた冊子を3回の公開研究会で配布した。
 - ・ 16年度は3年間の研究成果をまとめた冊子を作成予定。
- * フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績又は予定
 - ・ 上記の3回の公開研究会において、必要に応じて研究概要の説明を行った。
 - ・ 四日市市内の研修担当者研修会において少人数指導の取り組みについて発表を行った。
 - ・ 県教委主催の学力向上関係校研修会や桑名市の研修会で実践報告を行った。
- * 研究成果の普及活動の成果(他校への反響等)など
 3回にわたる本校の全体研修会の公開を通して、少人数指導やTT指導等の指導体制のあり方や事後検討会の討議の持ち方等について参加者に提案することができた。参加者のアンケート等から見ると一応の評価を得ることができたのではないかと考えている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

| | | | | |
|----------------------|---|--|--|----|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | <input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 6学級以下 | <input type="checkbox"/> 7～12学級 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 13～18学級 | <input type="checkbox"/> 19～24学級 | | |
| | 25学級以上 | | | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 | <input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導 | | |
| | 一部教科担任制 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 【研究教科】 | 国語 | 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 算数 | 理科 |
| | 生活 | 音楽 | 図画工作 | 家庭 |
| | 体育 | その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | <input type="checkbox"/> 無 | |